

Y17a

ひので衛星と高校・公開天文台・科学館との太陽共同観測データアーカイブの活用

矢治健太郎(立教大学)、大山真満(滋賀大学)、大朝由美子(埼玉大学)、時政典孝(西はりま天文台公園)、鈴木大輔(川口市立科学館)、坂江隆志(埼玉県立浦和西高校)、坂本大介(滋賀県立米原高校)、森下麻優香(大阪府立岸和田高等学校)、河野健太(小林西高等学校)

太陽観測衛星「ひので」の観測データは研究だけでなく教育目的にも利用することが推奨されている。そこで、2010年9月より高校や公開天文台・科学館の太陽観測と共同観測を行う観測提案を行ってきた。この観測提案はEPO campaign observation mainly for high school students(HOP173)として採択され、これまで計4回実施されている。この観測提案は海外の太陽研究者からの関心も高く、ひので衛星のミッション延長にも貢献している。

共同観測のデータの活用方法としては、日頃の自分たちの観測データとの比較や自身の勉強のためという所もあるが、高校のクラブでは府県の学生科学賞・文化展・研究発表会での研究発表へと発展しているところも多い。その結果、発表会場でさらに別の高校生がひのでのデータに関心を持つという効果も出ている。そこで、今回の講演では、高校生たちがひのでのデータのどういうところに着目し、興味を持って研究活動を行なっているか分析した。また、計4回の共同観測で蓄積されたデータアーカイブにどのような活用の可能性があるか議論する。

今年度はさらに12月19日から24日に、ひので衛星との共同観測を予定している。今回の共同観測では、高校だけでなく公開天文台や大学の天文部など多様な施設・団体も参加表明している。太陽活動極大期に向けての共同観測としても意義深い。この共同観測の結果についても報告する。